

# 甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価書 (後期)

平成 22 年 2 月 5 日 (金)

甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価委員会作成

第 2 回	学校関係者評価委員会			
実施日	平成 22 年 1 月 29 日 (金) 午後 3 時 30 分 ~ 5 時			
会 場	竜王小学校会議室			
参 加 者	(学校関係者評価委員)			
<学校評議員>	玉井高治	岡月美和	桂島恵美	平野一生
<PTA 正副会長>	三神悦子(会長)	川崎友理(副会長)	渡邊裕子(副会長)	
<学校側>	小林忠樹(校長)	矢野秀之(教頭)	小澤正士(教務主任)	
I 「学校側から提案された内容」				
○第 2 回目の職員自己評価、保護者・児童のアンケート結果についての報告				
・ 自己評価結果については、総合的に見てみるとほとんどの質問内容(評価指標)で、肯定的な意見(A: そう思う B: ややそう思う)の回答が大勢を占め、評価は高く良好な状況である。				
・ 保護者のアンケート結果については、肯定的な回答が調査項目のほとんどであるが、「子ども同士・教師とのコミュニケーション」「地域との連携」など、否定的な意見(C: あまり思わない D おもわない)が目につく質問内容が数項目あり、今後、改善に心掛ける必要がある。				
・ 児童のアンケート結果については、肯定的な回答(A: 良好 B: 普通)が調査項目のほとんどであるが、「授業などにおける教師とのコミュニケーション」が上手にとれないとの回答を示している点が気になるので、今後、改善に心掛ける必要がある。				
<職員自己評価・保護者・児童アンケートとの相関関係の分析結果について>				
・ 「学習指導～学校の授業がわかる」「生徒指導～子ども同士・教師とのコミュニケーション、規範意識の高揚」「地域との連携、学校評議員制度」「あいさつ運動～地域であいさつをする」に関する質問で、職員・児童・保護者の相違が現れている結果となっている。今後、保護者の理解が得られるような取り組みを実施していきたい。				
○竜王小学校の教育の良いところや改善すべきところについての感想や意見を聞かせてもらいたい。				
・ 学校、地域での児童の様子について				
・ 学校への要望や学校教育に対する地域の声について				
II 「協議された主な内容」				
○忙しい社会状況にあり、教師・児童・保護者とのコミュニケーションが不十分であること。				
・ 教師と児童が接するゆとりある時間がなくなり、コミュニケーションを図ることが難しくなっていることは、子どもとの信頼関係を築く上からも残念なことである。多忙であることを口実にするのではなく、休み時間等に遊ぶなど、子ども達とのふれ合いに努めてもらいたい。				
・ 親も毎日忙しい生活を送っているため、子どもの学校生活や教育活動について、本当に理解していない。保護者アンケートについても自信をもって回答ができないのではないかと。				
○保護者や児童が地域活動へ参加しなくなり、地域への関わり方について考える必要があること。				
・ 家庭、子ども、地域との連携の接点を見つけコミュニケーションを図ることが求められている。保護者の姿勢を正し、自治会長、PTA 役員、育成会など連携を図りながら地域で子ども達を育てることが必要である。				
・ 学校は教育活動の状況について、保護者ばかりに情報を発信するのではなく、地域(子どものいない世帯)へも情報を流す中で、地域全体で子どもを育てる体制をつくっていくことが大切である。				
・ 将来、社会の一員として地域社会を担っていく子どもたちに、もっと積極的に地域活動に参加して				

もらい、親子共々地域に溶け込む取り組みを保護者も考えてもらいたい。

○時代が変わって教師の負担が大きくなっているため、健康管理については十分注意すること。

- ・教職員の自己評価の結果からも教師は毎日多忙であり休む時間も少なく長時間勤務している。また、近頃は何でも学校（担任）に求めてくるため教師の負担は大きく健康について心配である。

○学校行事等へ参加する保護者の姿勢やマナーが大変悪いこと。

- ・授業参観、引き渡し訓練、学年行事等に参加している保護者の態度、マナーが良くない。機会あるごとに保護者の教育が必要である。

○児童の自転車の乗り方や交通マナーを守ってもらいたいこと。

- ・自転車の乗り方が悪く、急な飛び出しなど運転していてハラハラすることがある。歩行も含めて交通マナーを守ってもらいたい。

## 「学校関係者評価書」

### I 「全体評価」

- ・竜王小の教職員の自己評価、保護者や児童のアンケート結果について、見やすい資料づくりを心がけ、今後に向けた改善方針を分析・整理している。
- ・児童・保護者のアンケートを実施した結果について、「学習指導」「生徒指導」「地域との連携」等について教職員との相関関係を提示している。このことについて、保護者の理解を得るような取り組みや改善策を講じている点は今後につながり良いことである。
- ・一方、教職員自己評価・保護者・児童のアンケート結果から気になる点や問題点もうかがわれるので、今後の課題として、改善を図るべきである。

### II 「特徴」

- ・教職員の自己評価については、ほとんどの質問内容（評価指標）で評価は高く良好な状況である。
- ・「学習指導、学校の授業がわかる」との質問に対して、児童は（とてもわかる・わかる）との回答を示しているが、保護者は（わかる・あまりわからない）と回答している割合が多く、保護者の受け止め方とに相違がある結果となっている。
- ・「生徒指導、子ども同士・教師とのコミュニケーション、規範意識の高揚」に関する質問に対してはきまりや約束を守る指導の点で、職員や保護者の意識の違いが現れている。
- ・「地域との連携、学校評議員制度、保護者や地域の声に耳を傾けている」などに関する質問に対しては、学校の取り組みや努力の理解が得られていない状況である。
- ・「あいさつ運動、地域であいさつをする」に関する質問に対しては、学校内での職員・児童の回答結果はよい状況であるが、保護者は（あまりしていない・していない）と回答している割合が多い結果となっている。

### III 「今後の課題として意識されたいこと」

- ・職員自己評価、保護者・児童アンケート調査では、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携等についての問題点を把握すると共に教師と保護者の意識の相違点を掴むことができたが、この意識の違いを今後どのように改善していくか。
- ・学校評価（職員自己評価、保護者、児童アンケート調査）の結果を今後の教育活動へ反映させること。
- ・地域や保護者とのより良い連携を図り、地域・家庭・学校の教育力を高めていくこと。

